

<プログラム>

指揮 千葉了道  
ピアノ 高橋紅理子

- I ミサ曲第 6 番編ホ長調 D,950 より  
シュベルト 作曲  
1. Sanctus  
2. Agnus-Dei
- II 新作発表  
1. ふるさとの歌 2 題 伊藤正利 作曲  
・ 栗の木 森荘巳池 作詞  
・ ふるさとの山 石川啄木 作歌  
2. 宮静枝の詩による混声合唱曲  
・ あじさい  
・ 海のひぐらし  
朗読 宮静枝
- III 「杉の木のうち」 中村千栄子 作詞/石井欽 作曲  
指揮 石井 欽  
(全日本合唱連盟理事長/作曲家)  
・ 一章 杉の話  
・ 二章 湖底の恋  
・ 三章 杉の木のうち
- IV みんなのコーラス  
(どうぞいっしょにうたいましょう) ...  
\* 大きな古時計  
\* フィンランドディア  
\* 雪山讃歌  
\* 赤とんぼ  
\* 待ちぼうけ  
\* 雪の降る町を

第 11 回.....北声会合唱団定期演奏会

12月14日(火) P.M 6:30 指揮/石井 欽  
岩手県民会館大ホール (全日本合唱連盟理事長/作曲家)

千葉了道  
ピアノ/高橋紅理子

石井欽氏御紹介



氏は武蔵野音楽大学ピアノ科を卒業後、ミュンヘン国立音楽大学に留学し、オルプに師事して作曲の研究をされた。  
帰国後「結木と太陽」等すぐれた合唱作品を数多く発表なされ又オペラ、バレエの作品も多く日本の作曲界の重鎮である。と同時に自作の指揮者としても活躍されている。  
現在愛知芸術大学の教授、全日本合唱連盟理事長の要職にある。一昨年、私たち北声会合唱団の定演で自作の「風紋」の指揮をされ好評であった。そして昨年「ジプシーの歌」。  
本年も、私たちのため栄盛、今回は自作「杉の木のうち」を指揮する。



(第10回定演より「ジプシーの歌」指揮 石井欽氏)

後援 / 岩手県教育委員会・岩手日報社・岩手放送

<団員名簿>

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	千葉了道
ピアノ	高橋紅理子
委員長	石川稔
副委員長	長計
パートリーダー	Sop.
	Alt.
	Ten.
	Bas.

<主な活動> 昭和 51 年 1976 年

- 1/25(日) 新春コーラスコンサート (花巻文化センター)
- 3/26(金) NHK「おぼんです」出演 (ビデオ)
- 4/27(火) IBC「おはよう岩手」出演
- 5/8(土) 市民芸術祭「コーラスの夕べ」出演
- 6/19(土) 岩大マンドリンクラブ演奏会賛助出演
- 9/12(日) 雅玄会箏曲演奏会賛助出演 (山本邦山)
- 9/26(日) 移動音楽祭 (水沢公演)
- 10/9(土) 盛岡芸術祭 (四人の会) 出演
- 1/27(土)28(日) 強化合宿
- 2/14(火) 第 11 回定期演奏会  
岩手女子高校音楽会賛助出演

<主な活動> 昭和 52 年 1977 年

- 定演は開催せず。
- 4/3(日) フランクフルト少年処女合唱団演奏会 (二戸市) 賛助

< Sop >

畠山	金子	房妙	子子	子子	藤駒	井木	明美	子子
金岩	矢泉	紀久	子子	子子	高小	館川	和枝	子子
大橋	石本	真早	子子	子子	大佐	崎藤	千裕	子子
及及	川川	宗尚	子子	子子	菅菅	沼沼	和誓	子子
佐新	藤沼	亮君	子子	子子	門福	口田	智敬	子子

< Alt. >

内金	田山	喜代	子子	子子	江西	原村	京牧	子子
高寒	河江	久敏	子子	子子	伊伊	藤島	康廣	子子
佐松	丸丸	伶操	子子	子子	八八	島島	和郁	子子
安北	藤川	静美	子子	子子	佐伊	木藤	順順	子子

< Ten. >

吉佐	田木	睦莊	郎一	福藤	田沢	信昭	清夫
木木	村村	康康	彦彦	鈴鈴	木木	昭昭	彦彦
多多	田田	隆隆	一夫	千千	葉葉	行行	有有
仲仲	沼沼	照照	夫夫	太太	田田	貴貴	之之

< Bas. >

佐牛	藤越	洗恂	吉滝	田久	五郎
菊菊	池池	也也	石石	一	郎
斉斉	藤藤	宏宏	相相	好	稔
					雄

## ——ごあいさつ——

「手作りの音楽」——あえて北声会の特徴は？と問われて出る言葉ではないかと思う。確かにこれまで10年間継続してきた事実です。今年、特筆したいことは、「北声会のために」とおつしやつて石井敏先生が、お忙しい中お書きくださった合唱曲「杉の木のうち」を氏御自身の指揮で歌わせていただけるはこびとなったことです。

2年前「風紋」で始めて私たちが石井先生の音楽に直接触れる機会に恵まれ、たいへん感動をしました第9日定演以来の念願がやつとかなえられたわけです。正直言つてなかば半信半疑ながらも首を長くして待つただけに9月末に楽譜が届いた時の喜びはまさに大きいものでした。

千葉了道氏もまた新作を発表することになり、今年も正真正銘の「手作りの合唱」がプログラムの半分を占めるわけで、私たちの自負したい気持の由縁です。

団員の仕事の都合上、どうしても週1回の練習だけに頼らざるを得ない苦しい事実の中で、やはり練習不足は認めざるを得ませんがどんなに忙しくても北声会の練習だけは——という気持が、今年も定演をむかえられた支えになつてきたと思います。

どうか今後とも暖い御支援と厳しい御指導を切にお願いいたします。

・・・ 11才の北声会で・・・

指揮者 千葉了道

自分が本当に求めている音は、何なのだろう。曲を書いている時、完成した曲を練習している時、いつも私にまつわりつく思い。

シューベルトのミサを練習する。石井敏先生の曲を練習する。それは、すごく美しい音楽であり深い感動がある。自分の曲の練習にとりかかる。とたんに、どうしてこんなにごちなく、安っぽく、つまらないのであろうか、とガツクリする。案外いいな、と思うことが、ほんの少しでもあれば大きい負いなのだが。それでも、こりずに又作曲する気になる。

歌ってくれる団員の皆さんにいつも感謝。そして聴いて下さる皆様にも。

北声会合唱団も11才になった。11年生も居るが1年生もいる。半途退学や卒業して再び入団する人もいる。きびしさと楽しさを同居させる苦労を味わいながら歩いている合唱団だと私は思っている。

石井敏先生が私たち合唱団のために新しい曲を書いて下さった。ほんとうに有難いことである。

唯、同じプログラムに私の曲のあることが、なんとなく、なんとなく。